

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☐ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☐ リハビリテーション専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☒ <u>潜在的対象者の把握について工夫している。</u>	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 潜在的対象者の情報が、民生委員や社会福祉協議会など、既存の関係機関だけではなく、地域の企業や商店など様々な方々から地域包括支援センターに寄せられ、対象者のニーズに合った制度や支援につながります。 内容： ・圏域内の金融機関やスーパーを個別訪問し、地域包括支援センターの機能と役割を説明し、高齢者に関する困りごとをヒアリングしたうえで、支援が必要な高齢者の情報提供を依頼しました。その結果、多くの金融機関から、認知症やフレイルが原因で金銭管理や手続きが困難になりつつある高齢者の相談が寄せられ、必要な支援につなげることができました。 ・医師から発行されるフレイル処方箋に基づき、対象者を訪問して面談を行い、本人の状態に応じた介護予防実施の提案を行った結果、通所訪問型短期集中サービス（豊中のはつらつ教室）や通いの場につなげることができました。 ・介護保険制度や介護支援専門員の役割について記載した独自の新聞を年2回発行しています。職員自ら地域をまわり、10,000世帯に歩いてポスティ	【取組進捗状況内容】 圏域内の社会資源との連携強化や、多職種による相談会等を通じて、圏域内での潜在ニーズや、発見のきっかけ作りにつながられています。フレイル処方箋を活用した、潜在的対象者への支援開始にもつながられています。 【特に優れている点】 独自の新聞を年2回発行されており、圏域内へ地域包括支援センターの機能周知から、潜在的対象者の掘り起こしにつながられています。 【課題】 コロナ禍の制限下以降、地域活動の限界から低下している、地域包括支援センター機能の周知拡充に期待します。

令和6年度 庄内地域包括支援センター

		ングを行いながら、気になる家を確認し、民生委員と情報を共有して声掛けを行った結果、介護保険認定、通所訪問型短期集中サービス（豊中はつらつ教室）利用、通いの場での定期的な体操実施につなげることができました。	
		【課題】 金融機関やスーパーを多数訪問した結果、まだまだ地域包括支援センターの周知が進んでいないことがわかったので、今後も様々な方法で地域包括支援センターの周知を図っていく必要があることを認識しました。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・今年訪問できなかった薬局、コンビニエンスストア、喫茶店、飲食店などを訪問して、地域包括支援センターの周知と支援が必要な高齢者の情報提供協力を依頼していきます。 ・地域包括支援センター独自の新聞ポスティングは継続して行っていきます。	

令和6年度 庄内地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☒予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☐3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☐多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組み	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 高齢者本人及び支援者に消費者被害防止のための情報を発信し、だれも被害にあわない地域づくりを行います。 内容： ・一人暮らし高齢者が参加される各校区のサロンに訪問し、消費者被害防止のための注意点を繰り返しお伝えすることで、独居高齢者の詐欺被害に対する意識が高まりました。 ・実際に庄内地域で発生した、特殊詐欺の手口の詳細をSNS等で高齢者を支援する医療介護関係者に共有し、被害防止を依頼することで、未然に被害を防ぐことができました。 ・消費者被害防止をテーマにした落語会を開催し、多くの高齢者に楽しみながら被害にあわない方法を学ぶことで、高齢者の詐欺被害に対する意識が高まりました。	【取組進捗状況内容】 圏域内の介護支援専門員やヘルパーに対する、事例共有や新規事案共有によって、新たな手口や被害事例等を基に、被害防止につながられています。 【特に優れている点】 落語家による啓発活動が、参加者に好評で、わかりやすく身近なものとして伝えられているようです。医療介護専門職間での情報共有も行われています。 【課題】 常に頻発する新たな手口に対応できる、情報提供や啓発の継続・拡充に期待します。

令和6年度 庄内地域包括支援センター

	を実施している。	【課題】 特殊詐欺の手口は年々新しいものが出てきており、様々な場所で注意啓発を行っても、被害にあわれる方がありません。よって最新の情報を継続的に発信し続け、特に高齢者のまわりにいる方々が気をつける必要があります。 【改善の方策と次年度の取組み】 ・地域教室、地区サロン、通いの場など、高齢者が集まる場所で継続的に消費者被害防止の注意啓発を行っていきます。 ・例年、消費者被害防止をテーマにした地域教室は参加者が少ない傾向でしたが、落語を組み合わせることで、非常に多くの方が参加しましたので、次年度も継続します。 ・介護支援専門員やヘルパー等、高齢者の生活を身近で支える立場にいる方々に消費者被害防止の注意点を伝え、協力して被害を防止します	
--	----------	--	--

令和6年度 庄内地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、<u>地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。</u> ☐地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 個々の介護支援専門員が、介護支援専門員同士の横のつながりをつくり、他職種とも連携してよりレベルの高いケアマネジメントを行います。その結果、仕事にやりがいを感じ、介護支援専門員の資質向上に繋げていきます。 内容： ・庄内圏域にある看護小規模多機能居宅介護と小規模多機能居宅介護の職員と介護支援専門員が交流し、意見交換する研修会を開催しました。今までよく理解できていなかった看護小規模多機能居宅介護・小規模多機能居宅介護の機能を知ること、より利用者のニーズに合った、幅広いサービスの提案を行えるようになりました。 ・介護支援専門員を中心とした「認知症見える事例検討会」と「困難事例検討会」を開催しました。介護支援専門員自身が、他事業所の介護支援専門員や多職種の意見を聞くことで気づきを得て、視野が広がり、自ら課題や解決策を導き出せるようになるべく指導・支援をしています。主任介護支援専門員が増えたことありますが、介護支援専門員からの初歩的な相談は減少しています。 ・豊中市南部地域の介護支援専門員が毎月集まって意見交換や悩み相談を行う会に包括の主任介護支援専門員2名が参加し、介護支援専門員の困りご	【取組進捗状況内容】 圏域内の介護支援専門員同士のつながりから、自主的な勉強会や研修会が実施される仕組みが構築されています。 【特に優れている点】 介護サービスの理解を深める、事業所の機能紹介や情報共有が行われています。毎月実施されている介護支援専門員の会合に参加し、介護支援専門員の課題やニーズの把握につなげられています。 【課題】 介護支援専門員の課題や資質の向上を、客観的に把握できる取組みの拡充と、それらを活用した効果的な活動の展開に期待します。

令和6年度 庄内地域包括支援センター

		とや研修で学びたいテーマ、包括への要望などについて率直な意見を伺うことができました。	
		【課題】 ・地域包括支援センターが主催する研修に、全く参加しない事業所があり参加する事業所が固定化してきています。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ・圏域内の各居宅介護支援事業所を訪問し、業務上の困りごとや学びたいテーマについてヒアリングを行います。 ・地域関係者や他機関、他職種と介護支援専門員が交流し、意見交換できる研修を継続して行います。	

令和6年度 庄内地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒ <u>地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。また地域で通いの場の普及啓発に取り組んでいる。</u> ☐ 多様な地域活動や通いの場等と連携し、高齢者の社会参加促進のための地域資源の情報収集及び共有を行い、地域の介護予防ネットワークの構築を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 既存の通いの場の参加者がモチベーションを下げることなく、活動を継続する支援の拡充を行っていく。 内容： ・ 個々の通いの場をまわり、運営状況を確認しながら、困りごとに対して一緒に考え、サポートを行っています。階段しかない2階の会場で、階段を上ることが大変な参加者が増えたことから、会場の責任者に交渉して1階の会場で開催できるよう支援を行なうことによって通いの場の継続と拡充に繋がりました。 ・ テレビやデッキの問題で活動休止したり、開催できなくなることを防ぐために、地域住民や施設に余っている機器の寄贈を呼び掛け、複数のテレビとデッキを譲っていただき、グループへの機材拡充から内容の架空中に繋がりました。 ・ 健康大学、地区サロン、地域教室、なんでも相談の場で通いの場の普及啓発を行った結果、新規通いの場を立ち上げることができました。 ・ 通いの場交流会を開催し、通いの場メンバー同士が日ごろの悩みや工夫について話し合う場を設け、横のつながりをつくり、5年間継続しているグループの表彰を行いました。	【取組進捗状況内容】 個々の通いの場が抱えている、課題やニーズを踏まえ、それらを補っていける支援を提供することで、通いの場の継続と、内容・参加者の拡充につながられています。 【特に優れている点】 通いの場交流会が継続して開催されており、通いの場同士のつながりの拡充や、情報共有・情報交換の場として、確立されています。 【課題】 残りわずかな空白地帯に対する、アプローチと展開の拡充に期待します。

令和6年度 庄内地域包括支援センター

		【課題】 ・高齢化により、徐々に参加者が減りつつあるグループがあります。 ・一方、会場が狭く、参加人数が上限に達し、新規希望者を受け入れられないグループがあります。 ・パワーアップ体操は行いたい、世話人まではやりたくないという人が多いです。 【改善の方策と次年度の取組み】 ・楽しく行える新しいコグニサイズ（認知症予防運動）の取組みを紹介し、各グループで活用します。 ・交流会等で各グループが行っている工夫や取組みを共有し、マンネリ化しないように支援していきます。 ・引き続き、高齢者が集まる場で介護予防、通いの場の普及啓発を行い、将来の参加者を増やすとともに、新しい通いの場の立ち上げ支援を行っていきます。	
--	--	--	--

令和6年度 庄内地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☒ <u>地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。</u>	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 地域住民が認知症を正しく理解し、認知症当事者とその家族が住み慣れた地域で排除されることなく、自分の居場所を持ち、希望する生活を送ることにつながります。 内容： ・SNS や包括新聞、高齢部会等でオレンジカフェの活動報告を継続して行った結果、新たに看護小規模多機能居宅介護施設1カ所と小規模多機能居宅介護を併設したサービス付き高齢者住宅1カ所にて、オレンジカフェを開催することができました。オレンジカフェ同士の交流も行っています。 ・小学生に向けた認知症サポーター養成講座開催や、金融機関に対し支援が必要な認知症高齢者の情報提供を依頼や認知症サポーター養成講座の開催依頼を行うことによって、認知症当事者や家族等の負担軽減・在宅生活の安定に繋がられるよう働きかけました。	【取組進捗状況内容】 圏域内の認知症当事者の参加があり、進行や重度化に備えた情報共有・情報交換が行われています。オレンジカフェ同士の交流機会も持たれています。 【特に優れている点】 地域の理解や協力を得ながら、オレンジカフェの継続や新設につながられています。 【課題】 認知症当事者参加は推進されていますが、その家族等に拡充した内容の展開に期待します。

令和6年度 庄内地域包括支援センター

		【課題】 ・介護保険サービスやオレンジカフェにつながっている高齢者は、ごく一部であり、どこにもつながっていない認知症高齢者がまだたくさんいます。 ・オレンジャーとの協働は徐々に進んでいるが、キャラバンメイトが十分に活躍できていません。 【改善の方策と次年度の取組み】 ・既存のネットワークを活かしながら、地域住民の協力を得て、まだオレンジカフェがないエリアにオレンジカフェを立ち上げ、オレンジャーやキャラバンメイト、認知症当事者がいきいきと活動できる場を増やしていきます。	
--	--	---	--